



「ものづくりの伝承は函館高専が！」

---

2007年問題を好機ととらえる



# マイスター登録

---

- 2007年以降、地域企業で定年をむかえる確かな技術を持つ技術者を「**マイスター**」として登録する(複数登録)
- マイスターは自薦または各企業から推薦してもらい、所属していた会社とは、独立して活動



# ものづくりの場から教育の場へ

- 機械加工技術、情報処理技術、食品製造技術、生産管理技術、品質管理技術など地場企業を中心に、技術者を推薦してもらい、マイスターは多彩な分野に常時複数名登録されている。
- 登録したマイスターには、本校の規程に従い任命証を公布する  
(特専教員制度)

今度は高い技術を教育の場で活かす！

やりがいの提供！



# マイスターの役割

---

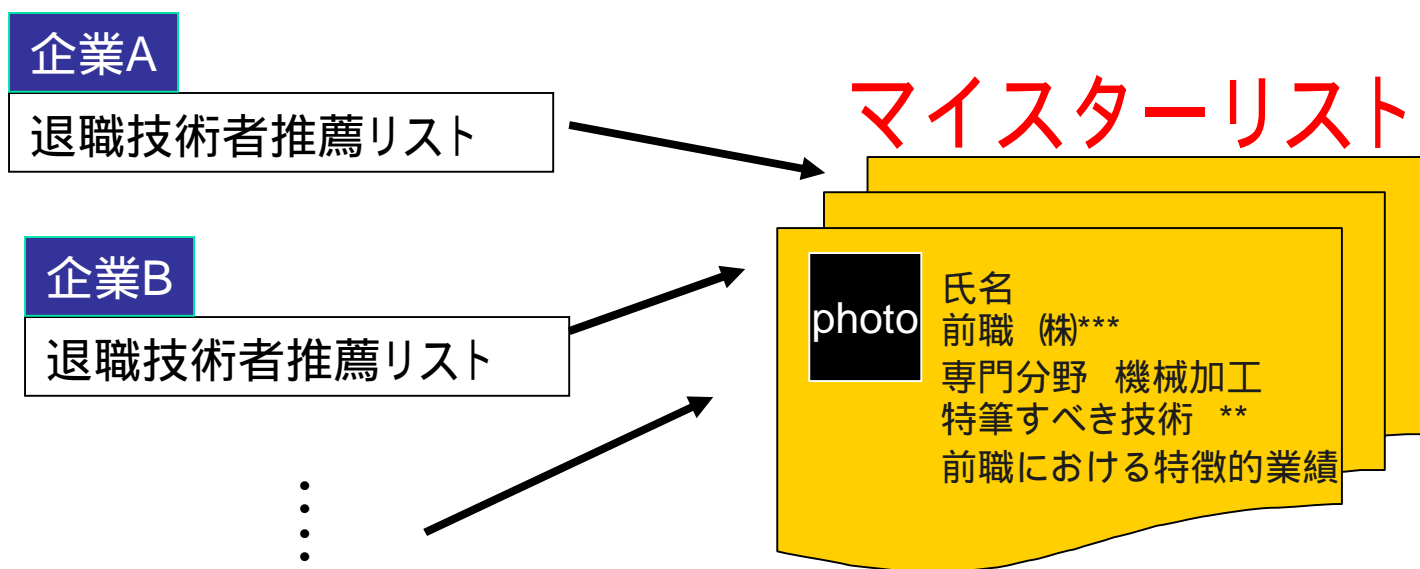
- 専攻科学生を主体としたプロジェクトを行う。このとき、各分野のマイスター(たとえば、機械加工、電気)はチームを組み、多面的に学生の技術上のサポートを行う

技術面のみならず、企画立案、計画の進捗状況管理なども含む

- プロジェクト進捗ステージに応じて、知財担当、マネージメント担当マイスターも必要であろう。

地域共同テクノセンター・キャリア教育センターとの連携

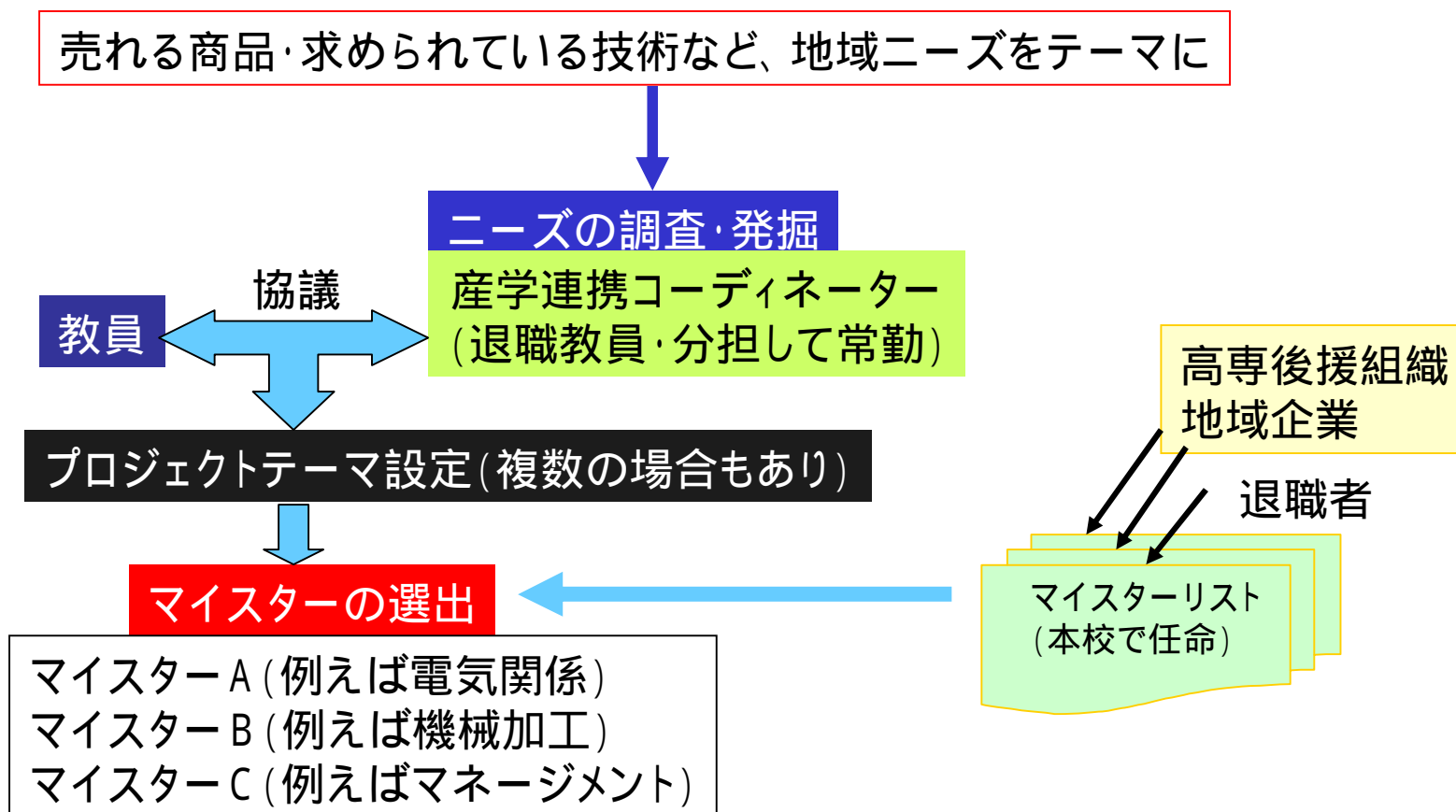
# イメージ図



退職技術者の高い技術を「学生の教育・技術の伝承」に向け、新しいやりがいを！

退職後に函館へUターンした際、あらたな活躍の場にも？

# プロジェクトチーム結成



# ものづくり伝承プログラムの始動

- 1年PBLと2年PBLを

## 「ものづくり伝承プログラム」と位置づける

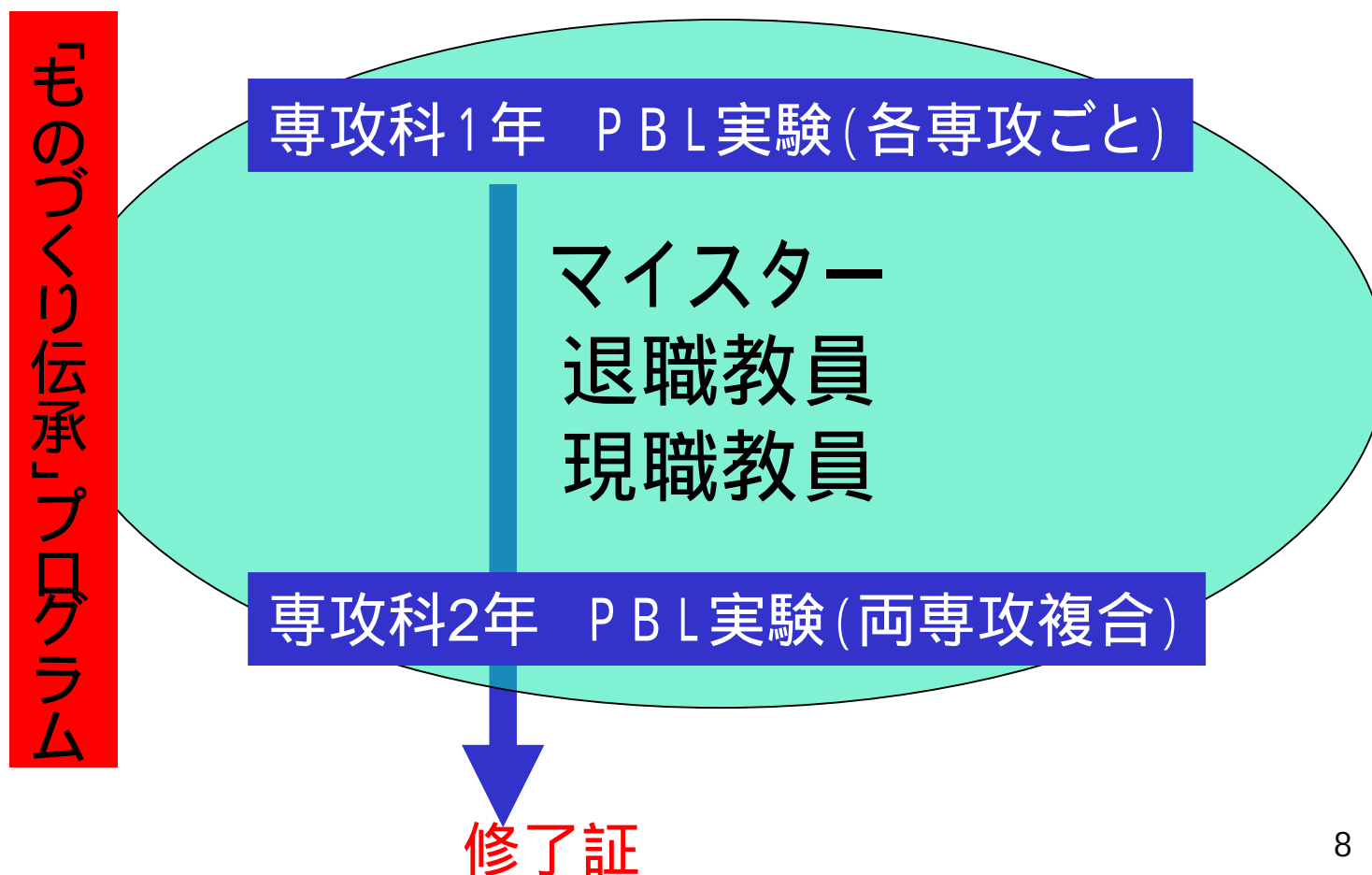
1年： 各専攻ごとのPBL実験にマイスター達を関与させる

2年： 両専攻を複合してPBL実験を行い、マイスター・退職  
教員・現職教員とでチームを組み、地域からの実践  
的な課題に取り組む

この2年間のPBLをものづくり伝承プログラムとし、  
しかるべき機関から修了証を。

就職試験等で企業にも誇れる特徴的プログラム修了者

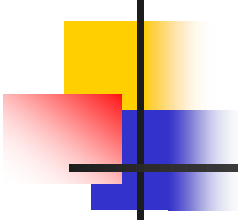
# 「ものづくり伝承」プログラム 専攻科 P B L 実験の利用



教育機関では教えにくい…

## ものづくりへの納期意識の徹底

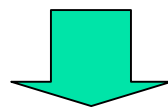
- 2年PBLでは、ものづくりを行なうターゲットを設定した後、教員は、マイスターリストから該当するマイスターを複数ピックアップする。
- 学生(複数)、マイスター、教員で**明確な納期意識を持った目標設定**をする。  
「売れる」「だれかが喜ぶ」など具体的なゴールを明確にすることが、モチベーションとなる
- **進捗状況は適宜検討会を行い確認する。**



# シーズが育成できるのでは？

このプログラムは、地域企業からの課題等を  
吸い上げて行なわれる

つまり、プログラム終了後には、地域ニーズに即した  
シーズが育とうとしている段階では？



**その後の展開をはかる**

**教育的な配慮のものづくりから、さらに進んだものづくりへの発展**

もともと、高いものづくり技術者を輩出している「高専」の  
ブランドイメージを最大限に利用できる